英語を生かす道

　現在の英語教育には様々な挑戦すべきことがあると思います。生徒の言語力を伸ばすのは最終目的であると思います。

　それでは教科としてもっとも挑戦すべきことは何でしょうか。生徒は内容を把握できるか、勉強や練習の資料が豊富であるか、聴く力や会話力を磨くということでしょうか。授業の内容はある程度国の方針と教科書によって決まっています。しかし、実際の学校では各教師が重要とする部分によってアプローチが異なります。

　しばらく英語指導助手として中学校で色々な英語教師と一緒に教えた経験から、生徒の様子を見て、そのアプローチの効果を深く感じました。例えば、ある教師は単語練習に力をいれるのに対して他の教師は文法練習に集中します。

　何の教科でもやる気のある人とない人がいると思いますが、英語ではよく「私、英語は無理だ」とか「全然分からない」という声を聞きます。まだ初級なのに、もう諦めている生徒は何人かいます。英語の重要性を経験しないで諦めるのは残念なことだと思います。

　同じ内容を教えているのにクラスの英語力ややる気が大分異なる理由は何でしょうか。教師が英語をテストの点数をあげるために教えるより、英語は生徒自身の社会や生活に欠かせないものとして教えた方が効果的なアプローチになると思います。

　語彙や文法の勉強はもちろん重要ではありますが、英語はもっと広い世界への階段です。これから生徒を国際社会へ導くためには、生きている英語に触れさせながら、その重要性を痛感させるのはもっとも超えるべき挑戦だと思います。